

中学校 1年 特別活動（学級活動） 学習指導案

「トラブルに遭遇したとき、主体的に解決する方法を知る」

日時：平成 年 月 日（ ）

場所：

授業者： 教諭 奥田 恭隆

1 題材名

ケータイの落とし穴：個人情報をもろろ「ちょっと待ってケータイ2」より（エルネット）  
学級活動（2）ーウ 社会の一員としての自覚と責任

2 題材について

(1) ねらいについて

携帯電話は、中学生にとって身近で、とても関心の高いものである。自分専用の携帯電話を所持している生徒も少なくない。生徒たちは、携帯電話本来の利用方法である通話より、電子メールのやりとりやインターネットを用いたサイトの利用・閲覧などに関心が高いという現状がある。中には、携帯電話に関する十分な知識がなく利用を行い、様々なトラブルに巻き込まれる生徒も少なくない。そこで、本学習においては、携帯電話を安全に利用する上で必要とされる知識（トラブルの予防策や対処法）を知らせとともに、携帯電話を利用する際の基本的なルールやマナーについて自覚をもたせていきたい。

(2) 生徒の実態について（男子〇〇人、女子〇〇人 計〇〇人）

本学級の生徒に行ったアンケートの結果は次の通りである。①携帯電話を扱ったことがある〇〇%、②自分専用の携帯電話を持っている〇〇%、③一日に平均10通以上メールをやりとりする〇〇%、④オンライン無料ゲームをしたことがある〇〇%、⑤着うたや音楽のダウンロードをしたことがある〇〇%、⑥プロフ・リアルなどを利用したことがある〇〇%、⑦携帯電話のトラブルにあったことがある〇〇%、⑧携帯電話のトラブルについて知っている〇〇%、⑨迷惑メールブロックやフィルタリングについて知っている〇〇%、⑩インターネットを利用したことがある〇〇%、⑪インターネットのメールやブログを利用したことがある〇〇%⑫インターネットでトラブルにあったことがある〇〇%。

(3) 資料について

本学習で使用するDVD教材「ちょっと待ってケータイ2」は、携帯電話を安易に使用することが、子どもたちにとっていかに危険であるかの意識啓発を促す資料として文部科学省が作成したものである。この教材では、中学生に起こりうる携帯電話使用上のトラブルの一部始終がドラマ形式で収められている。登場人物や舞台もとても身近なものであり、携帯電話を使用する上での留意事項などを考えながら、子どもたちが主体的に学ぶことができる教材である。

(4) 指導にあたって

- 生徒の興味関心を高めるために、実態に身近なDVD教材を用いる。
- DVD視聴の際は、物語を最後まで見せずに、生徒の考えや予想を出させ、討論させるようにする。これによって、生徒の主体的な学びが深まるように配慮する。
- 様々な場面で起こりうるトラブルを予想させ、携帯電話を安全な使用方法について話し合いを通して気づかせる。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、モデルカリキュラムの目標「3. 安全への知恵」、項目「d4-2：トラブルに遭遇したとき、主体的に解決する方法を知る」との関連を重視して展開する。

イ 情報の光と影の部分について理解を深め、加害者、被害者にならないようにする。

(6) 人権教育の視点

ア 班での発表や討議の際に、自分の考えを自信をもって発表できるような支持的風土づくりに努める。(きちんとした姿勢で聞く、はっきりと大きな声で話すなどの学習ルールの徹底)

3 本時の学習 (1 / 1時間)

(1) 目標

ア 個人情報の大切さに気づき、それを安易に知らせないようにする態度を育てる。

イ インターネット上の様々な罠の存在に気づき、それに正しく対処できる能力を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と児童の反応	教師の指導と評価	備考
導入	5	① 携帯電話でできる便利なこと、やってみたくことを考える。	C: メール、オンラインゲーム、インターネットオークション、音楽のダウンロードなどができそうだ。	○携帯電話の利便性に注目させる。	
			ケータイの安全な使い方を知ろう。		
展開	7	② DVDを視聴する。(途中まで)	C: こういうメールは、私も受け取ったことがある。	○分かりにくいところは解説を入れる。	DVD教材「ちよっと
	5	③ 主人公の行動の問題点を考える。	T: 太郎さんと花子さんのケータイにたくさんのメールが届くようになったのはなぜでしょうか。	○両方とも個人情報を安易に知らせてしまったことに気づかせる。 〈評価①〉	待ってケータイ2」 大型テレビ
展開	25	④ 携帯電話を安全に使用方法を考える。 ア 携帯電話の利用におけるトラブルを予想する。 (共通問題)	T: 学習シートの①～③の場合には、どんなトラブルが予想されるでしょうか。 C: 使用料金を要求される。	○それぞれの事例を、写真を用いて分かりやすく説明する。 ○個人で考えた後、班で討議させる。 〈評価②〉	DVDプレイヤー ワークシート
		イ トラブルを防ぐ方法を考える。 (集団思考) ウ 班ごとの考えを発表する。	T: 太郎君たちは、どうすればこのようなトラブルに巻き込まれずにすんだでしょうか。 C: 個人情報を知らせない。身に覚えのないメールは無視する。迷惑メールブロックやフィルタリングを利用する。	○討議を行わせた後に、教師からも補足を行い、確実に理解させるようにする。〈評価②〉	記入シート 事例スライド ワークシート
終末	3	⑤ DVDの続きを視聴する。	C: あのメールに返信をしたのがいけなかったのか。	○個人情報の大切さを再確認させる	ワークシート
	5	⑥ 教師のまとめを聞いて、今後携帯電話を使用していく際の留意	C: 携帯電話は便利だけど、怖い面もあると分かった。これからは、「〇〇の点について」気をつけて使っていきたい。	○携帯電話の使用には、危険も伴うため、対処法を知った上で、使用する	

	点を書く。 (自己決定)		ことを押さえる。	
--	-----------------	--	----------	--

#### 4 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル（中目標）	道徳、各教科・特別活動 他
a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え行動する。	道徳 「たまにはメール来なくてもいいかも？」 1-(1) 節度、健康や時間の大切さを自覚し、節度と節制に努め調和のある生活をする。 心の触れ合い「ごあいさつのすすめ」 2-(1) 礼儀
b4-1：個人の権利・人格権・肖像権などを尊重する。 b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する。	道徳 規則の意義「二つの手紙」 4-(2) 社会の秩序と規律  技術科 【関連】 技：TRY「著作物の利用の仕方」（知的財産権）
c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。 c4-3：契約の基本的な考え方を知りそれに伴う責任を理解する。	社会科 「社会の発展と新しい人権」 知る権利とプライバシーの権利との関連を考える。  家庭科 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 悪質な商法の種類やトラブルについて理解し、契約の意味を知る。
d4-2：トラブルに遭遇したとき主体的に解決を図る方法を知る。	<b>学級活動 「ケータイの落とし穴 個人情報を守ろう(2)-ウ 社会の一員としての自覚と責任」(本時)</b> 家庭科 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 トラブルへの対処法を考えることができる。
e4-1：情報の信頼性を吟味できる。(2年時)	技術科 情報とわたしたちの生活「インターネットで情報を収集しよう」(情報の信憑性) インターネットによる情報収集の方法について理解する。 「情報伝達の方法を調べてみよう」 いろいろな情報を伝達する手段の特徴や利点について調べ、比較する。
f4-1：健康の面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識し行動できる。	国語科 「メディア社会を生きる」 メディア社会やメディアの働きに関心をもつ。
g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。	社会科 「情報社会と私たちの責任」 情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
h4-1：基礎的なセキュリティ対策が立てられる。	道徳 規則の意義「二つの手紙」 4-(2) 社会の秩序と規律
i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する。	社会科 マルチメディアの活用「現在の情報通信ネットワーク」 インターネット等（マルチメディア）の利用分野を知る。 道徳 プラットホーム「よりよい情報社会のために」 4-(2) 社会の秩序と規律